

漁況海況予報事業（海洋観測調査）

本永文彦

1. 目的および内容

沖縄近海（沖縄島南部沿岸、沖縄島北西方の黒潮流域）の海洋観測を実施し、海況データの収集を行うことによって海況の現況を把握する。また、情報交換推進事業における漁況予測へ結びつけるために、海況情報の蓄積を図ることを目的とする。

1990年度（平成2年度）は、沖合定線を3回、沿岸定線を11回実施した。なお、今年度からは従来の沿岸A・B定線を廃止し、沖縄南部パヤオ周辺を調査海域とするP線を沿岸定線に設定した。

2. 方法

調査定線は、沖縄島北西沖合（図1）および沖縄島南部沿岸定線（図2）の2定線で実施した。調査の実施状況、調査船の概要および観測項目については、表1、2、3、4に示した。

3. 結果

1990年度（1990年4月～1991年3月）の海況の経過

- ①沖縄島南部海域での表面水温は、1990年5～6月はやや高め、7月は平年並み、8月はやや高め、10月は低め、12～2月は平年並みで経過した。なお、4、9、11月は時化のため観測を中断した。
- ②沖縄島南部海域での表面流況を図3に示す。1990年5月は1ノット以上の強い流れがみられ、全体に東よりの流れであった。7～8月は南よりの弱い流れが卓越していた。10月は定線沖側で欠測のため島よりの定点の状況しかわからないが、西よりの流れであった。12月は喜屋武岬沖でふぞろいの流れであったが、慶留間南と久高島沖で南～南東流であった。1991年1月は喜屋武岬～久高島沖で北～北東流がみられる他は目立った流れはみられなかった。2月は慶留間南沖で南東の離岸流、喜屋武岬沖で北北東の向岸流となり、全体に東よりの流れであった。3月中旬はふぞろいの流れであったが、同下旬には南南東流であった。
- ③沖縄島北西の黒潮主軸位置は、1990年5月那覇沖105マイルで“平年並み”、8月は同110マイルで“平年並み”、1991年2月は同115マイルで“陸棚に接近”であった。

4. 参考文献

南西海区水産研究所海外調査研究部 南西海区漁場海況概報No.98～100.
南西海区長期漁海況予報会議資料 平成2年秋季（10月）、平成3年春季（3月）。
1990年海域情報（沖縄近海）、水産海洋研究、55（3）、263～264。

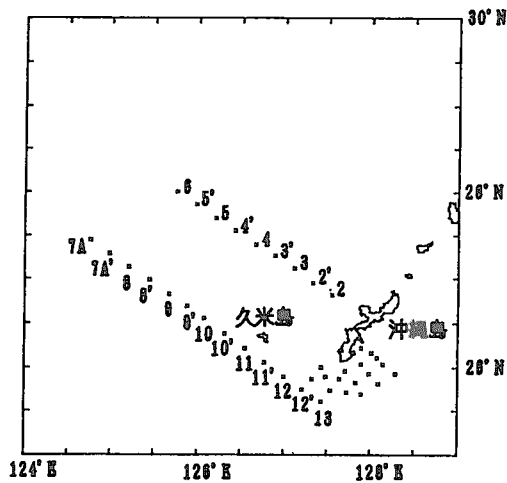


図 1. 沖合定線定点図 (O)

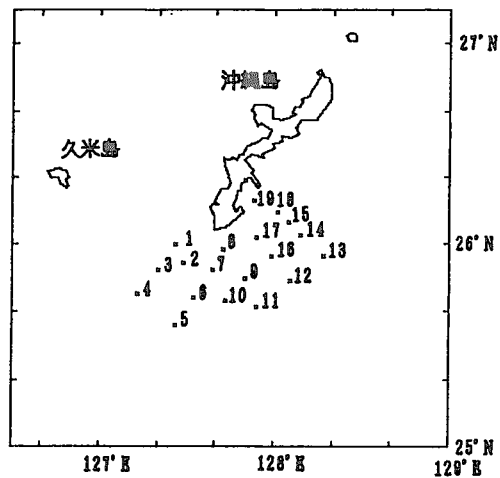


図 2. 沿岸定線定点図 (P)

表 1. 沖合定線調査実施状況

航 次	実施年月日	船 名	調査員	観測点数
1	1990年 5月 8～10日	凶南丸	本永文彦	22
2	8月 8～10日	凶南丸	本永文彦	22
3	1991年 2月 25～27日	凶南丸	本永文彦	22

表 2. 沿岸定線調査実施状況

航 次	実施年月日	船 名	調査員	観測点数	定線名*
1	1989年 4月 6、16日	くろしお	横田森夫	5	P
2	5月 10～11日	凶南丸	本永文彦	19	P
3	6月 19、21日	くろしお	横田森夫	6	P
4	7月 12～13日	凶南丸	凶南丸	19	P
5	8月 7～8日	凶南丸	本永文彦	19	P
6	10月 22～23日	くろしお	横田森夫	12	P
7	12月 21～22日	凶南丸	凶南丸	19	P
8	1991年 1月 28～29日	凶南丸	凶南丸	19	P
9	2月 27～28日	凶南丸	本永文彦	19	P
10	3月 12～13日	くろしお	横田森夫	12	P
11	3月 25～27日	くろしお	横田森夫	19	P

* P線は沖縄南部バヤオ周辺

表 3. 観測船の概要

	凶南丸	くろしお
乗組員	喜納政宥船長 他13名	比嘉永助船長 他4名
総屯数	216.09トン	34.82トン
速力	11ノット	10.8ノット
主機関	新潟鉄工所製 6MG25BX 1,000PS×1基	ヤンマーディーゼル製 6BN-DT 270PS×1基
補機関	ヤンマーディーゼル製 2KFL-T 185PS×2基	ヤンマーディーゼル製 3SML 2TL 38PS×1基 20PS×1基
測深機	鶴見精機製 TS-VS1型 ワイヤー (2.1mm) 1,500m	本地郷製 HHW-2型 ワイヤー (2.3mm) 1,500m
音響測深機	日本無線製 (カラー) JFV-216	古野電気製 (カラー) FVC-262
測位システム	日本無線製ロランA・C	古野電気製GPS GP-500

表 4. 定線調査の観測項目

観測項目	沖合定線調査	沿岸定線調査
水温、塩分の各層観測	800mまでの計14層、7点	なし
DBT観測	800mまで、15点	800mまで、19点
表面流況観測 (G E K)	22点	18点
一般気象海象観測	22点	19点

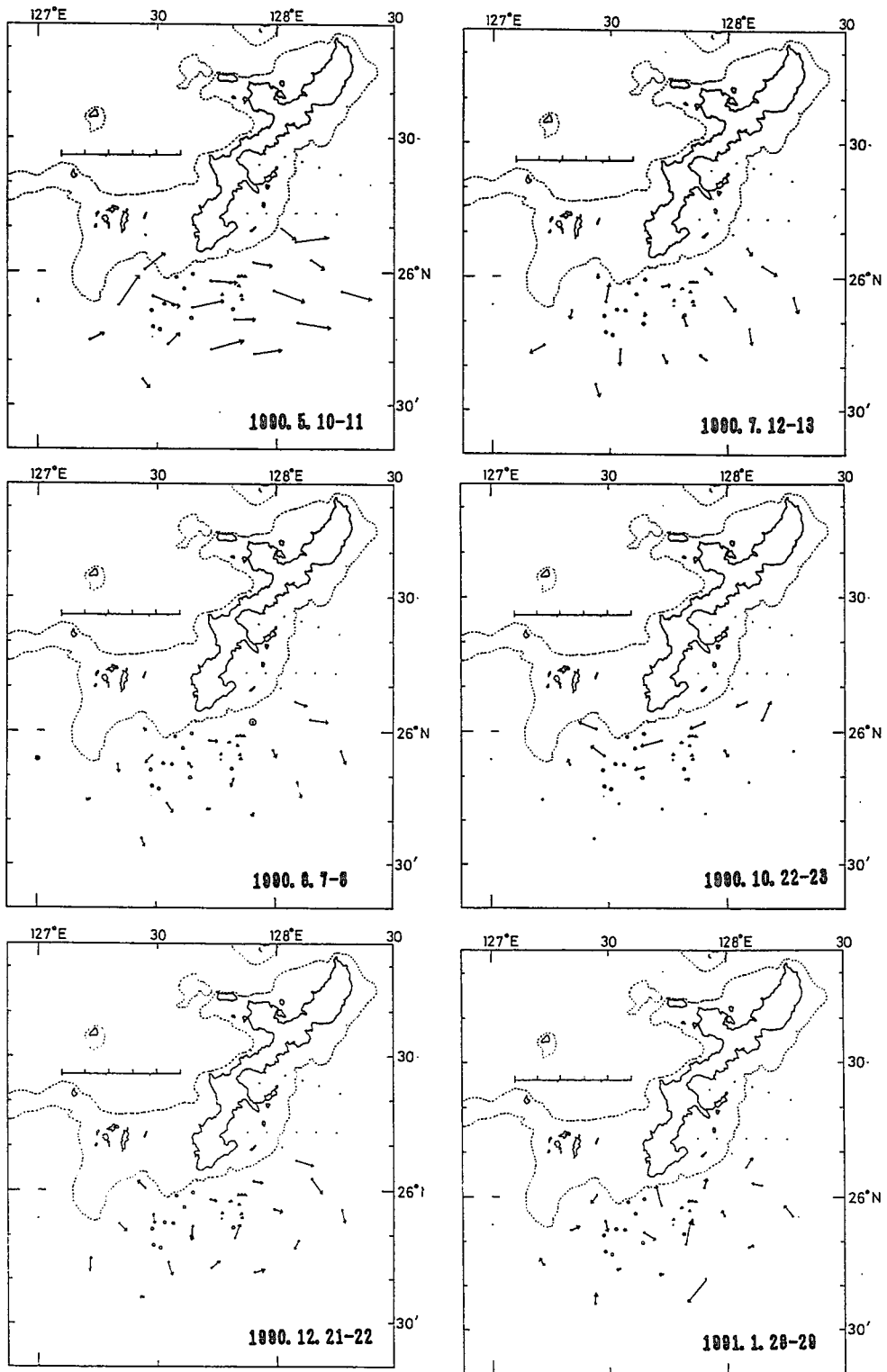


図3. 沖縄島南部バヤオ周辺での表面流況
 図中の○と△はバヤオ位置(1986年度承認、糸満と港川)

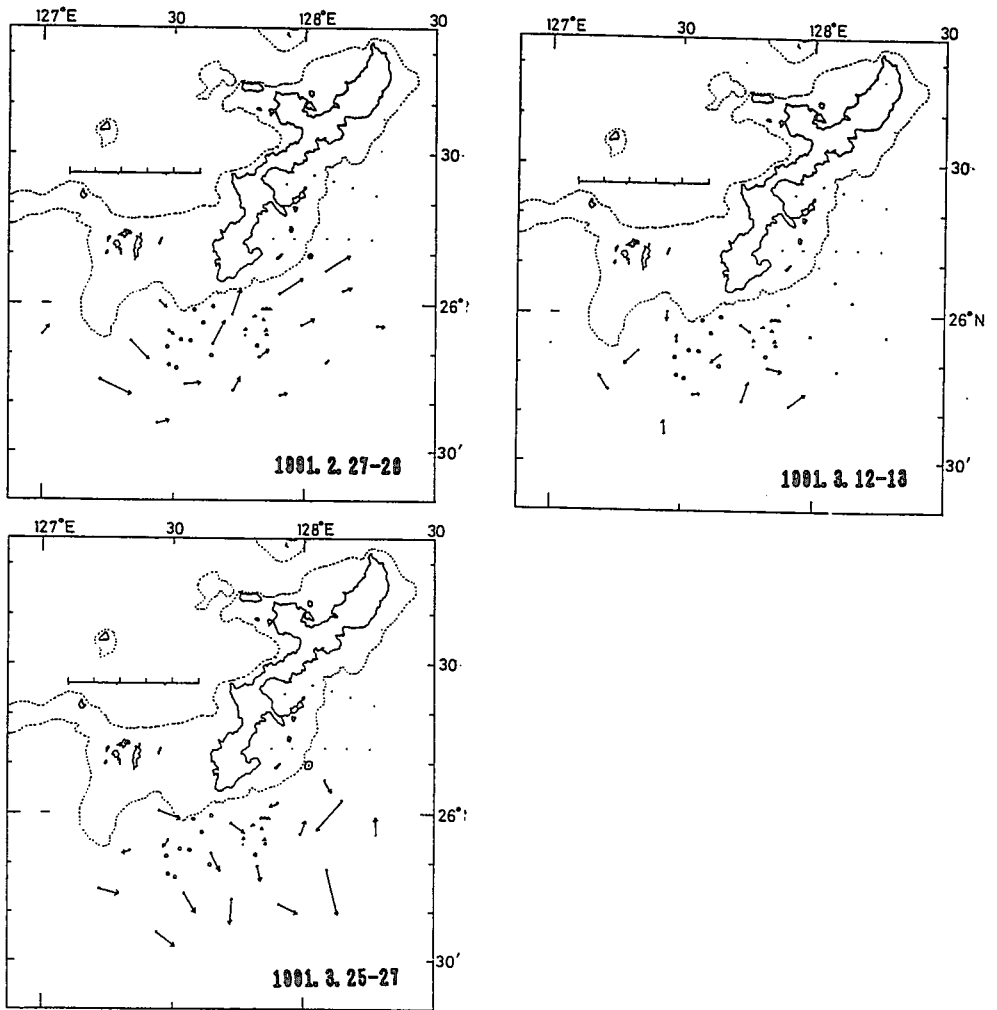


図3. 沖縄島南部パヤオ周辺での表面流況(つづき)

図中の○と△はパヤオ位置(1986年度承認、糸満と港川)